提言第17号　中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析－第2報（改訂版）
事例22
＜事例概要＞ 迷入 ① 70 歳代、慢性腎不全で透析中。心房細動がある患者。 ② 左内頚静脈に留置中のカテーテルが脱血不良のため、血液浄化用カテーテルを入れ替え予定。 ③ BMI 22.2 kg/m^2。抗凝固薬服用中、休薬なし。 超音波で右内頚静脈の狭小化あり。 ④ 透視下で留置中のカテーテルにガイドワイヤーを挿入し位置を確認後、カテーテルを抜去。カテーテルを挿入するが困難であり、再挿入も困難であったが、造影で血管内留置と判断。逆血はスムーズでなかったが、注入可能であり、透析回路に接続。脱血できず、中止。動脈脱血、カテーテル返血で透析開始直後に心肺停止。CT でカテーテルが無名静脈付近を穿通し右胸腔内への迷入が判明。翌日、開胸術で約2,000 mℓの血腫流出。上大静脈壁の穿孔部と右肺損傷部位を修復。抗凝固療法中止後、脳梗塞を発症し、急変から約3 か月後に死亡。 ⑤ 死因は、誤嚥性肺炎（疑い）。血管損傷後に抗凝固療法が中止されたことを契機に脳梗塞を発症し、誤嚥性肺炎を繰り返し死亡（推定）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。